

支 部 だ よ り

2006 年度 福岡支部総会の報告

森山英治(C昭52)

毎年恒例の福岡支部総会は、11月25日(土)の午後6時30分から、福岡市中央区赤坂のけやき通りに面したタイ料理のレストラン「サラ・リム・ナム」で開催されました。最高齢92歳の古田實氏(C科 佐賀県在住)から2004年に卒業したばかりの浜島百利子さん(F科 福岡市在住)や井上聡子さん(C科 福岡市在住)まで、年齢差約70歳に及ぶ様々な世代の同窓生21名が参加し賑わいました。



しばらく参加者の少ない支部総会が続いていましたが、昨年度から特に若い同窓生の参加が増え、活況を取り戻しつつあります。昭和の卒業生と平成卒業生の数が拮抗し、女性の数も増えてきました。佐賀市在住の副島正幸氏(S科1969年)と古賀武夫氏(F科1973年)をはじめ福岡県内各地から山崎隆治支部長(U科1966年)他多くの同窓生が集まり、キャンパスから千キロほど離れたこの地で、共に外語の卒業生であることの連帯感を実感することができました。

福岡市内では最も有名なタイ料理の名店であるだけに、次々にテーブルに運ばれる異国風味の料理はどれも見事なものでした。ビール、ワイン、焼酎との相性もなかなかで、心地よい酔いの中、母校外語大に関わる話題や互いの近況報告などで、大いに交流が深まりました。3時

間におよぶ懇親会の最後に集合写真を撮り、来年の再会を約束して散会となりました。

外語の同窓会らしく様々な国の料理を楽しめる店を会場にしようと幹事で思い立ち、昨年はモンゴル料理、今年はタイ料理の店となりました。参加者の楽しげな歓談の様子を想像しながら、来年はどここの国の料理にしようか思案中です。

福岡支部の同窓会は毎年11月最後の土曜日に設定しています。来年は11月24日(土)の予定です。支部の情報不足のために、まだ案内のハガキが届いていない方や転勤その他で福岡近隣にお住まいの方は、下記へご連絡ください。
〒815-0083 福岡市南区高宮 1-5-8-601
森山 英治 TEL092-531-1537

パリ支部

～国際学術戦略本部訪仏ミッション来訪～

沼田睦子(F昭44)

8月半ば、国際学術戦略本部富盛教授から、「国際的な研究協力・人的交流の活性化を図って海外ネットワークを形成中。その一拠点としてのパリに、既に交流校であるINALCO(筆者注:通称・パリ大学東洋語学校、日本語/日本文化教育機関として仏最高権威校)との協力強化協議のため出張予定。世界に支部を広げる外語会から本企画への支援の可能性を模索中。ついてはパリで…」との趣旨のご連絡がありました。

壮大な企画、対するに微力なパリ支部の支援?—— 半信半疑ながら、富盛教授とは1年しか卒業年が変わらない仲であることに勇気づけられ、9月1日、教授はじめ大学事務職員お三方から成る訪仏ミッションとのカルチエラタンでの昼食会に出席しました。

2004年4月国立大学法人への移行後、大学運営は大きな転換を迫られ、教育・研究面で各大学独自の個性と陣容を打ち出す企画が文部科学

省に承認されてはじめて国からの援助が得られる、等のご説明は、かつて1960年代に、東京外語大という看板だけで既に輝かしかった母校が20倍余の競争率で受験生を集めた時代の学生にとっては驚嘆に値しました。

ノスタルジーはさて置き、切磋琢磨こそ教育と研究の推進力であるべきことに異論の余地はなく、国際学術戦略本部開設は、こうした新たに求められる大学運営の基礎となることを、資料と共に詳細にご説明頂きました。

訪仏ミッションが携えられた多大な情報量に比して、時節柄、パリ支部からの出席が幹事ひとりだったことが悔やまれますが、今後、在パリ同窓生に語り、国際学術戦略本部海外ネットワーク支援の一助となっていくことを願っています。

シンガポール支部

矢戸岳史 (I 平 14/前幹事)

シンガポール支部では、例年3ヶ月に一度の頻度で同窓会を行っております。昨年8月と本年1月に、在星(シン)大阪外大との合同同窓会を行いました。毎回東京・大阪合わせ総勢40名前後が集まり、情報交換や対抗戦の話題に花が咲きました。



東京・大阪外大合同同窓会(昨年8月)

本年1月の会では支部会長でオリンパス現地法人社長である後藤澄男氏(R昭48)の提供によるデジタルカメラのラッキードロー(抽選会)も行われ、大いに盛り上がりました。今後も定

期的に親睦を深めていく予定です。また、当地では、東京6大学同窓会に由来する大学対抗ゴルフ大会があり、我が東京外国語大も上位に入賞するなど、運動面でも活躍しております。

来星あるいは近隣諸国へお越しの際はぜひ一度、ご連絡ください。

チューリヒ支部

Frei 希和子(D昭63)

「農夫は自分の知らないものは決して食べない」ということわざがまだ健在な保守国・スイスでも、Sushiという言葉がポピュラーになり、いろいろなスタイルの日本料理店が次々にできて、スイス在住の日本人にはうれしい限りです。去る2006年12月9日、チューリヒ中心部にある比較的新しい日本料理店にて、親睦会を開催いたしました。

チューリヒはスイスの金融中心地という場所柄、15年ほど前までは銀行や証券会社関係を中心にたくさんの卒業生が集まり、某ホテルの一ホールを借り切った立食パーティー形式という外語会もあったそうですが、バブル崩壊後は日本人駐在員を引き揚げる会社が相次ぎ、現在ではスイス人と結婚している現地組がほとんどとなってしまいました。しかし、それだけにみなさん現地でしっかりと根をはってがんばっておられる方ばかりです。

今回はRohr-福間さん(S昭63)、私の他に新たに杉崎さん(I平15)が加わり、女性ばかり3人で久しぶりに日本食を味わいながら、母校の話題をはじめ、身近な生活情報の交換など、楽しい会合となりました。



左から Rohr、杉崎、Frei

海外に出るとどこでもそうだと思いますが、特にスイスでは4つの公用語(独、仏、伊、ロマンス語)に加え当然のことながら英語と、多言語を操ることが当然視され、また日本と異なり職業訓練とそれに伴う資格の有無が非常に重視されることから、ただ単に外国語ができるというだけではなかなか自分をアピールすることが難しい社会です。今回皆さんの話を聞いて特に感じたことは、外国語の習得はあくまでも手段であって、それで何をするのか、何をしたいのかということもしっかり考えていかなければならないということです。それはとりもなおさず、人生をどう生きていくかということにつながっていくのだなあ…ということにいまさらながら思い至りました。私自身スイスに来ては十数年、これまで目の前の課題をこなすことに精一杯で今日まで来てしまい、そんなことを考える余裕もなかったことを反省することしきり、光陰矢の如しの感を深くしました。

環境や経歴は違いつながら、同じ大学に学び、縁あってチューリヒで再会した同窓生とざくばらんなおしゃべりをする中で、自分の座標軸を確認でき、皆さんの活躍に勇気付けられた会合でした。

チューリヒ近郊にはきっとまだたくさんの同窓生がおられることと思いますので、ぜひご一報くださいますようお願いいたします。

連絡先 Frei希和子 (D昭63)

admin@xintech.com

サンパウロ支部

砂古友久 (Po昭26)

この支部のつどいが東洋街に近い銀座大飯店で2月13日にありました。リオ大学の二宮ソニア教授(N昭56 週末聖市居住)の初めての参加も得て、11名でした。3-4年前は何時も十数人の出席だった...グループ留学生(オール女子学生)がいた2004年は招待したので20名位だった...70年代のピークでは40名位...などの回顧談にも浸りましたが、ソニーの独身三浦氏(Po平8)は、広いブラジルをセールスで東奔西走の多忙の中サッカーにも身を投げ情熱を燃

やす新鮮で清々しい話をし、「こんなにエンジョイ出来るブラジル派遣を昨今では敬遠する人が技術者以外にもいるのが不思議」だとブラジル礼賛したのが印象的でした。スリムで長身のスポーツ焼けした彼はボッサノヴァ好き。外語会はOG天下、独身の諸姉妹、いかがです?

何時も必ず出席の和井大先輩(Po昭16)は珍しく不参加。これが直ぐ3週間あとの逝去(93歳)に繋がるとは驚きでした。日伯病院その他数々の福祉施設で何千人もの従業員をかかえるサンパウロ援護協会の理事長として永年貢献され、矍鑠として現れウイスキー3杯を干された昨年の同窓会を思い出します。今回はたまたま来伯中出席の昔ブラジルで活躍した安倍井氏(I昭28)は元フルブライト留学生、方や経団連ブラジル留学の元ブラジル東銀の頭取だった鈴木氏(Po昭36)、この二人の話好きに毎日新聞書道や刻字で無審査の若松氏(Po昭26)が加わって大変な盛り上がり。ブラジル女性のソニア二宮先生の素晴らしい日本語に下村先輩(E昭24)が驚かれ「日本人?」と筆者に吹き、「ご主人が二宮弁護士」と説明。会合に欠けた事のない大日精化社長の藤崎氏(I昭40)は社長歴永すぎて帰国辞令ないようにと祈る有り難い存在。それ以外にNSKの杉村氏(Po昭45)、住友の宮田氏(S昭50)、ホンダ販売の鍋島氏(S昭61)の3人の社長さん達が当日の顔ぶれです。



和井さんの葬儀で、服部(Po昭14)夫妻と桜井氏(Po昭36)に若松氏(Po昭26)とも出会い、日新寮でマンドリンを弾き同室の後輩の和井さんが勉強で困ったエピソードを披露したら照れ笑いされ、いまは孫がギターと夫人の弁。